

# 一般財団法人 全国大学実務教育協会 会報

第9号  
MAY 2013

創立40周年を迎えて

— 設立時前後の思い出とその後の歩み —

## ● CONTENTS

巻頭論文	2
実務教育と教養教育——「虚実皮膜論」から考える	3
平成23・24年度実務教育優秀教員被表彰者寄稿	4
平成24年度 会長賞受賞者紹介 (No. 1)	5
実務教育の現場から	6・7
協会からのお知らせ	8

 一般財団法人 全国大学実務教育協会  
Japan Association of University and College for Business Education

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12  
第三東郷パークビル二階  
TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633  
E-mail:jaucb@jaucb.gr.jp  
PC:http://www.jaucb.gr.jp  
携帯:http://www.jaucb.gr.jp/mobi



# 創立40周年を迎えて

## — 設立時前後の思い出とその後の歩み —



一般財団法人 全国大学実務教育協会 代表理事・会長

札幌国際大学 理事長 **和野内 崇弘**

昭和48年8月上旬に東京の湯島会館(現東京ガーデンパレス)で7短大の有志が集まったのが、この協会の始まりだった。

この1年前の6月、私は佐賀市での短大のある研修会に出席していたが、当時、福岡女子短大の福田先生のことを思い出し、2日目の昼頃電話したところ、是非来て下さいということになった。

前年12月、当時の東京ヒルトンホテルで日本秘書協会主催の研修会があり、その時に福田先生が秘書教育について発表されていたことを思い出したからで、私も昭和44年開学した札幌静修短期大学(現札幌国際大学短期大学部)で秘書特別講座なるビジネス教育を実践しており、参考にする資料も他の実践校も知らず、自分が良かれと思った考えでやっていた。

そこで、福岡女子短大を見学し、教育課程、施設設備など福田先生と教育について語り合いたいと電話連絡したのが、この協会の本当の始まりであった。お互いに女子の高等教育のあり方について時を忘れて熱く語り合い、全国的な情報があれば交換しながらこれからのことを考えようということになった。その後、1年間は主に手紙のやりとりで意見交換をして、その結果、冒頭の会合となったわけである。

40年経った協会も生みの親の1人である故福田節生教授なくしては存在しなかったであろう。今日の協会の隆盛を知らずに満60歳を前にして去ってしまわれたことは、私にとっては悲しいことであった。共にせめて盛大に挙行了した30周年記念式典を迎えなかった。彼なくしては今日の協会はなかったかもしれない。私一人の力ではできなかったであろう。漸く、協会の活動の方向性が見えてきた頃であっただけに残念であった。

その後、全国的にいろいろな同志に恵まれ、協会の会員校も増え、実務教育の教育、研究の場として、そして主たる業務としての資格授与団体として今日に至ったわけである。今では28の資格を授与している。そしてそれらの資格は商標登録がなされている。長い間、「秘書士」だけの発行であったが、今は多くの資格教育課程を開発し資格を授与している。秘書士は最初の頃は暫くの間資格ではなく、学んだものへの努力の成果としての「称号」の扱いであった。最盛期には1年

に3万人に授与することもあった。

ところで、協会発足前のことに戻るが、福田先生と私の共通点としては、お互いに女子の短期大学の設立にかかわった経験をしたことにある。当時は家政科主流の時代であり、他に国文科、英文科などの教養系、職業につながるものとしては保育科があった。到底、就業力育成につながるような実務教育など話題にもならなかった時代である。

経済の高度成長時代に入り、短大出の女子卒業生も企業に勤めることが当たり前だったが、未だ企業では「職場の花」的扱いで、企業戦力とは捉えていなかった。入社後、電話の掛け方、受け方、文書の扱い方などの訓練をするといった戦力外の人材としての存在であった。

そして、次第にウーマンパワーの活用が必要となる時代がやってきた時に、われわれの教育対象がこのようなことで良いのだろうか、女子の高等教育とは一体、何を目標せばよいのか女性能力の活用が社会的にも必要なのではないか、など研修会で熱い議論を戦わしたことがつい昨日のこのように思い出されるのである。当時のエネルギーが信じられないくらいである。このエネルギーが今日までの私を支えて協会とかかわってきたように思う。

この間、熱心なあまり多くの方に失礼な言動があったのではと反省しているところである。

今や一般財団法人として公的存在の団体としての社会的責任を負っている。時あたかも文科省では大学・短大の設置基準で実務教育、ないしはキャリア教育を義務化した。つまり、高等教育で就業力養成の教育が必要だということになったのである。それに一般的に伝えようと考えた資格が「実践キャリア実務士」である。いわばキャリア教育の一般教育版であり普及版といってよいだろう。正しく40周年を記念する資格であるといってよい。この普及が今後協会に課せられた大きな課題であるといってよいだろう。

最後に私的なことであるが、5月の役員任期終了を以て、15年に亘る会長は勿論、すべての役員の仕事を終えることにしました。長い間、ご協力を賜った会員校の皆さん、役員、事務局の皆さん方に心からお礼を申し上げたい。長い間本当に有難うございました。

そして、新しい会長を中心とする新理事会による更なる協会の発展に期待したいと思っています。会員校の皆さん方のご支援、ご協力をお願いいたします。

# 実務教育と教養教育 「虚実皮膜論」から考える



一般財団法人 全国大学実務教育協会 評議員

関西外国語大学理事長・短期大学部学長 谷本 榮子

江戸中期の浄瑠璃と歌舞伎の脚本作者、近松門左衛門に、有名な芸術論があります。「虚にして虚にあらず、実にして実にあらず、この間に慰が有るもの也」。あの「虚実皮膜論」です。

変化の激しい、グローバルな時代、産学連携の強化も相俟って、全国の大学で、社会直結型の実務教育、キャリア教育が大きな注目を集めています。卒業後の進路を見据えて、職業観や勤労観をしっかりと育み、職業上の具体的な知識や技能を身に付けさせて、学生一人ひとりの就業力を強化する――。

雇用環境が流動化し、社会構造が大きく変化するなか、即戦力を求める企業などのニーズに積極的に応えていこうという試みです。

近松の芸術論を「教育論」に置き換えれば、“実”は実務教育とキャリア教育、“虚”はさしずめ、教養教育、自然科学だと、基礎研究と応用研究ということになるでしょうか。

本学は、国際人の育成とともに「時代と社会の要請にこたえていく実学」を建学の理念としています。終戦の年、創立者が戦後の復興と国際社会への復帰を外国語教育に託して英学院を開学して以来、本学はこの理念を具現化すべく、語学教育の充実・強化と留学ネットワークの拡充に力を入れてきました。

語学教育はもともと、実学的色彩の濃い学問領域ですし、海外留学も実践的な要素が色濃く滲みます。言葉も価値観も、歴史も生活習慣も、大きく異なる社会に身を置いて、そこに暮らす人々と日々接し、語学力とコミュニケーション能力を磨き、肌で異文化を体験し、理解する――。留学は実学そのものかもしれません。

本学は、この語学と留学を二本柱に据えて、大きく成長して来たのです。“実学主義”を掲げ、実践してきたという意味では、実務教育、キャリア教育の先頭を走ってきたとも言えるでしょう。

それは今も変わりません。

例えば、平成21年秋、本学は中・長期プロジェクト「関西外大ルネサンス2009」を策定し、少子化とグローバル化が進むなか、時代と社会のニーズにどう応え、個性ある大学として存在感を高めていくか、未来に向けての行動指針といたしました。

そこで打ち出したのは、国際通用力を保証する世界レベルの言語教育の実践拠点とする、高度な専門職業人育成へのアプローチを強化する――などを中心と

した「外大ビジョン・6つの柱」です。

短期大学部ではこれに先駆け、社会常識やコミュニケーション能力などの「ジェネリックスキル(一般的・包括的な生きる力)」向上を狙いとした「K.G.C.ベーシックス」を開講し、社会人基礎力の底上げに挑んでいます。

国際言語学部では、社会が求める「8つのコンピテンシー(基礎力)」の育成を強力にサポートする「就業力育成プログラム」をカリキュラム化し、平成22年度の文部科学省の「大学教育改革支援プログラム」に選ばれました。

昨年度からは、大阪、兵庫などの大学・短大グループと提携した同省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に移行しましたが、関西の企業や商店街を舞台に「PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング=課題解決型授業)」などを導入し、着実に成果を挙げています。

また、伝統的に就職志向が強い航空、ホテル関連業界への対応策として、中宮学舎にエアラインとホテルの二つの演習室を設けたことも、実学重視の一環です。エアライン演習室は実物大の旅客機の客室内を、ホテル演習室はフロントの模擬カウンターを再現していて、ホスピタリティーの実際を学びます。本格的な授業はこれからですが、本学の新たな名所になりそうです。

実務教育、キャリア教育はいまや、社会の必然、時代のトレンドであり、今後ますます、その比重を高めそうです。その一方で、教養教育はどうとらえ、実務教育、キャリア教育と、どう関連付けていけばよいのか。この大きな課題を考えるうえで、昨年、示唆に富む出来事がありました。

山中伸弥・京都大学教授のノーベル医学・生理学賞の受賞です。山中教授は基礎研究を積み重ね、ヒトiPS細胞の作製に初めて成功し、再生医療や難病治療の切り札として世界の注目を集めました。iPS細胞を使った臨床研究や新薬開発はこれからですが、このありようは基礎研究と応用研究、近松の言う“虚実”の、見事な融合だと思えます。

教養教育と実務教育、キャリア教育の関係も同じでしょう。広く、深い教養を身に付ければ、人間力もおおずと豊かに、大きく育ちます。社会で生き抜く力もレベルアップしていくことは言うまでもありません。

高等教育の役割は、教養教育と実務教育、キャリア教育の“ハイブリッド”にある――。近松の芸術論と山中教授の受賞は、私たちが忘れてはならないことを、改めて教えてくれているような気がします。

## 平成23年度 実務教育優秀教員被表彰者寄稿



福岡工業大学短期大学部 ビジネス情報学科  
准教授

吉原 克枝

この度は、全国大学実務教育協会より実務教育優秀教員として表彰を賜り、身に余る光栄に存じます。学校法人福岡工業大学理事長、福岡工業大学短期大学部学長をはじめ、教職員、関係者の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

私は10年間百貨店に勤務し、その後大学院の修士課程、博士課程に進み、産業・組織心理学を専攻いたしました。大学・短期大学などの高等教育とその後の企業を中心とした人材育成のインターフェイスのあり

### 実務教育優秀教員として表彰されて

方を構築することを自身の使命ととらえ、教育と研究に取り組んでおります。

福岡工業大学短期大学部は「For all the students」という理念のもと、学生が確実に就職や大学編入などの次のステップに進めるようにきめ細やかで丁寧な教育を重視しています。私は学生が次のステップに踏み出すための土台となる「キャリア関連科目群」を主に担当しています。キャリア関連科目群は「人間関係論」、「キャリア発達論」、「ビジネス実務論」、「ビジネス実務とマナー」から構成されています。

キャリア関連科目群全体では、以下の3つの目標を掲げ、各々の授業を設計しています。1つ目は、生涯を通じて働くために必要な基礎知識と思考能力を身につけることです。2つ目は、他者と良好な関係を築き、仲間と協力してチームに貢献できる力を身につけることです。3つ目は、社会的状況の中で自己を適切に認識し、自律的に活動する力を養うこと

です。これらの力は、変化の激しい社会環境に適応するためにすべての学生が身につける必要があると考えます。

これらの力を2年という短期間で育成するために、私は双方向、疑似体験、振り返りを授業に意識的に取り入れています。例えば、「人間関係論」という授業ではグループワークを取り入れています。人間関係に関わる心理学の理論を学んだ後、その内容に沿ったグループワークを行います。理論だけでなく、実践すること、そして体験を振り返ることで社会的スキルを育成します。

今後の労働市場における過酷な競争状況を想定すると、基礎的な就業能力が開発されないまま、社会に出てしまうことのリスクは非常に高いと考えられます。今後も、かかわった学生をひとりでも多く、自分の足で社会を歩けるようにしたいとの思いを胸に日々の教育活動に向き合う覚悟です。

## 平成24年度 実務教育優秀教員被表彰者寄稿



大手前短期大学 ライフデザイン総合学科  
准教授

水原 道子

この度全国大学実務教育協会から実務教育優秀教員として表彰を賜り、心から御礼申し上げます。

近年大学・短期大学の環境は大きく変わり、自分らしい学び方が自由に選べることを看板に掲げている本学でも、さまざまな視点から改善が行われております。特に、真の社会性と汎用能力を学修する実務教育をいかにして実施していくかが大きな課題となっております。

現代の多様なニーズと資質の学生の目と心をひきつけ、彼らが自分の

### 実務教育優秀教員として表彰されて

頭と体で行動できるようになることを目指すカリキュラムの特徴は、「短期間で明快な結果が出ること」「わかりやすく楽しいこと」「就職に有利なこと」の三点です。

いずれも当然のことばかりですが、具体的に授業に取り入れるとなりますと、教員数やコスト面も含めて難しいものがあります。そこで本学では、教員全員が垣根をはずして協力し、FDを活用しながら教科内容・指導法を学び合うことで、柔軟に周辺授業を拡大し、担当できるように努力しております。このことが単に合理化だけではなく、教員間のコミュニケーションを良くし、一人ひとりの当事者意識も強くなり、組織の活性化につながっております。「就職に有利な」情報の共有や「楽しいこと」の社会的ニーズの収集、「明快な結果」に向けての教員構成を考え、次々と新たなカリキュラムを生み出しております。

例えば、就職活動や各種検定に重要な「話し方」を学ぶためのカリキュラムとして、基本的な「ビジネス実

務演習」「プレゼンテーション演習」はもとより、文法や敬語など硬いイメージの「日本語表現法」や「キャリアベーシック」、各業界の店頭実演を学ぶ「接客実務演習」、相手の心理を読み取る「会話と心理」、言葉に感情を入れて話す「セリフ・演技パフォーマンス」、良い声や発音を訓練する「MCアナウンス演習」をはじめ、相手になりきった心理で話す「声優メソッド」、実際の式場を設定しての「ブライダルプロデュース演習」など、「わかりやすく楽しいこと」が実感できる学びを工夫しております。これらは単にケーススタディを実習するだけではなく、いろいろな立場・場面で「なりきる」体験を通して、心地良い「話し方」を考え、身に付けていくことを目指しております。

このように工夫された実務教育を本学で学んだ学生の98%が「満足している」と充実感を得て、それぞれ自分の翼を見つけて巣立っていく姿に、短期大学実務教育の成果を感じております。

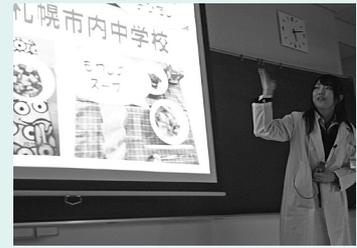
# 平成24年度 会長賞受賞者紹介 (No.1)

No.	資格名	大学名	学部・学科名	氏名	No.	資格名	大学名	学部・学科名	氏名
1	上級情報処理工学	相模女子大学	学芸学部	鈴木麻梨菜	36	情報処理工学	福島学院大学短期大学部	情報ビジネス科	阿部 優瑚
2		清泉女学院大学	人間学部	長谷川恵世	37		自由が丘産能短期大学	能率科	高橋 果奈
3		名古屋女子大学	家政学部	外園 千紘	38		富山短期大学	経営情報学科	松井 彩
4		京都光華女子大学	人間科学部	徐 姍姍	39		北陸学院大学短期大学部	コミュニティ文化学科	高木美香里
5		京都女子大学	現代社会学部	藤丸 温子	40		仁愛女子短期大学	生活科学学科	川村 麻依
6		武庫川女子大学	生活環境学部	野口百合香	41		愛知学泉短期大学	生活デザイン総合学科	岡崎 郁穂
7		広島女学院大学	生活科学部	新井 彩華	42		岡崎女子短期大学	経営実務科	柴田 真由
8		安田女子大学	現代ビジネス学部	岸 靖子	43		京都文教短期大学	ライフデザイン学科	佐々木 愛
9		四国大学	経営情報学部	木下由加里	44		大阪千代田短期大学	総合コミュニケーション学科	岡本 彩佳
10		久留米大学	文学部	千北 恵美	45		湊川短期大学	人間生活学科	樋口 知美
11		福岡県立大学	人間社会学部	松永 綾香	46		就実短期大学	生活実践科学科	原田 千咲
12		活水女子大学	文学部	鈴木 藍	47		中国短期大学	情報ビジネス学科	槇野亜佑実
13		長崎純心大学	人文学部	小川 摩耶	48		四国大学短期大学部	ビジネス・コミュニケーション科	横山 房子
14		沖縄国際大学	産業情報学部	中村佳乃子	49		高松短期大学	秘書科	山津 響子
15		富山短期大学	経営情報学科	福居 優理	50		松山東雲短期大学	秘書科	野田あきみ
16		金城大学短期大学部	ビジネス実務学科	佐野 有梨	51		精華女子短期大学	生活科学科	蔵岡 美保
17		名古屋女子大学短期大学部	生活学科	浅野由香里	52		尚絅大学短期大学部	総合生活学科	中島 久実
18		高田短期大学	オフィス人材育成学科	杉本 洋子	53		鹿児島国際大学短期大学部	情報文化学科	小平 未希
19		滋賀短期大学	ビジネスコミュニケーション学科	渡辺 恭子	54		鹿児島純心女子短期大学	生活学科	成尾 葵姫
20		大阪キリスト教短期大学	国際教養学科	藤並 梓	55		鹿児島女子短期大学	教養学科	蔵前 美空
21	四條畷学園短期大学	ライフデザイン総合学科	魚川 侑子	56	相模女子大学	学芸学部	山本 由梨		
22	プール学院大学短期大学部	秘書科	小山 真知	57	武庫川女子大学	生活環境学部	仲辻 美里		
23	和歌山信愛女子短期大学	生活文化学科	土井 紫帆	58	広島女学院大学	生活科学部	畝 幸恵		
24	鳥取短期大学	生活学科	北村 俊大	59	自由が丘産能短期大学	能率科	井口真稀子		
25	中国短期大学	情報ビジネス学科	山形 稀美	60	鳥取短期大学	生活学科	谷口 笑美		
26	安田女子短期大学	秘書科	森川 咲菜	61	鹿児島女子短期大学	教養学科	小園 茜		
27	久留米信愛女学院短期大学	ビジネスキャリア学科	高崎 真希	62	沖縄国際大学	経済学部	眞謝 千秋		
28	情報処理工学	相模女子大学	人間社会学部	伊藤 緒美	63	ウエブデザイン実務士	大手前大学	メディア・芸術学部	赤津佑希子
29		京都女子大学	文学部	南 千景	64		函館大谷短期大学	コミュニティ総合学科	芦野 りあ
30		長崎純心大学	人文学部	田中 隆史	65		プール学院大学短期大学部	秘書科	小川 晶子
31		國學院大学北海道短期大学部	総合教養学科	澁谷 涼	66		鹿児島純心女子短期大学	生活学科	満留佑己子
32		函館大谷短期大学	コミュニティ総合学科	大清水奈緒	67		大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部	濱中あゆみ
33		青森明の星短期大学	現代介護福祉学科	坂下 美里	68		九州保健福祉大学	保健科学部	中村しおり
34		聖霊女子短期大学	生活文化科	大高美紗樹	69		甲子園短期大学	生活環境学科	吉田 知代
35		東北文教大学短期大学部	総合文化学科	齋藤 里華	70		新潟青陵大学	看護福祉心理学部	村上 早紀

大学名、学部・学科名は平成25年3月31日現在である。

# 札幌国際大学の 課題解決型学習の構想

札幌国際大学 教授 飯田 俊郎



全国大学実務教育協会から新資格「実践キャリア実務士」の情報をいただきながら、本学は大規模なカリキュラム改革を行いました。大学・短大の今年度の新入生から、全体の半数強にこの資格取得を推奨し、どのような職業を選択するか深く考えさせる演習と、チームワークによる課題解決型の実習を組み合わせ、社会人基礎力の習得を目指します。「キャリアガイダンスの必修化」という社会の要請に、本学は実践キャリア実務士のカリキュラムで応えることにしたのです。なお、他の半数弱の学生には、観光ビジネス実務士資格と幼児教育・保育の国家資格を推奨します。

課題解決型学習は短大では今年度、大学では来年度から導入されます。短大では既に昨年度から「学生食堂の改善のための調査・提言」というプロジェクトに取り組み、その成果を学内プレゼンテーションコンテストで発表するなど、一定の成果をあげています。大学では2年生の全学共通科目として「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」を前期・後期に配置し、約300名の学生をフィールドワークに向かわせる予定であり、どのような規模のクラス編成とすべきか、どのように学部・学科・専攻の専門領域を組み合わせるか、教員のチーム編成をどのように行うかを検討しています。この検討のために、全教員の実践的な教育活動や地域貢献活動の実態調査を実施し、学内外の有効な資源の掘り起こしに取り組んでいます。

本学の地域貢献は、日経グローバルによるランキングで毎年、「大学の規模の割には学生が活発に地域で活動している」という観点から高い評価を受けています。しかし、それぞれの活動の規模が小さく、身近な地域で行われているものが多く、遠方で行う活動の情報が伝わりづらいなど、広い北海道で大きな存在感を示すには至りませんでした。私たちは新しい資格とカリキュラムの導入を、このような現状を打破する絶好の機会として受け止めました。課題解決型学習のうち地域貢献の名に値するプロジェクトの進捗状況を、フィールドワークから提言発表、さらに提言の実践に至るまで社会に広く公開しようというのです。

また、従来はせいぜい学生個人の他学科履修を認める程度で、学部・学科・専攻の縦割りになりがちであった教育を見直し、それぞれの長所の相乗効果をあげる場面として課題解決型学習を活用しよう、という機運が高まっています。たとえば、園芸療法を学ぶ学生とス

ポーツ指導を学ぶ学生の協働による団地再生プロジェクトや、観光商品企画を学ぶ学生と歴史・民俗を学ぶ学生の協働によるご当地検定プロジェクトなど、今までにはない創造的で深みのある教育が可能になります。互いの教育研究活動に関心を持っていた教員同士が所属の垣根を越えて連携する機会が増えれば、大学は大いに活気づくことと思われれます。

これまで、全国大学実務教育協会と連携して進めてきたプレゼンテーションの教育については、高校における同種の教育が浸透したこともあり、カリキュラムの存廃を含めた抜本的な見直しを検討しておりました。しかし、昨年度のコンテストではフィールドワークに基づく個性的で実践的な報告が多く、課題解決型学習との相乗効果が期待できるとの意見も上がり、何らかの形で存続を図ることになりました。入賞者の発表テーマは以下の通りです。

- 最優秀賞 短大部総合生活学科2年  
「北海道の給食と偏食」
- 優秀賞 心理学科3年  
「北海道の戦争と未来」
- 優秀賞 短大部総合生活学科1年  
「北海道の大学食堂比較研究」
- 奨励賞 観光ビジネス学科3年  
「北海道初、五感で楽しむ旅行プラン」

やや「食い意地」に走ったきらいもありますが、各学科を代表する学生チームが「北海道」というメインテーマの下、幅広いテーマの研究に取り組んだ姿は、大いに教員を刺激するものでした。この種のイベントではありがちな、「インターネットで収集した情報の小器用な報告」という先入観を覆す発表が多く、私自身も「課題解決型学習もかくあるべし」と感じ入り、コンテスト廃止の意見を棚上げにした次第です。

大学・短大の運営には今後も厳しい時が続きますが、学生と教員の創造性を刺激する教育プログラムの開発により、不確実性の時代に立ち向かう所存です。課題解決型学習という大きなハードルを与えてくださった協会の皆様へ感謝申し上げます。

(札幌国際大学 前教務部長)

# 自由が丘産能短期大学の2年間に 渡るキャリア教育の実践

自由が丘産能短期大学 准教授 関 憲治



自由が丘産能短期大学(以下、本学)では、長年に渡ってキャリア実践教育に取り組んできました。2011年度より、さらなる充実を目指して、2年間に渡るキャリア教育プログラムを導入しました。本学のプログラムは「実践キャリア実務士」にも対応しており、1年次終了時点で資格取得が可能です。ここでは、本学の2年間に渡るキャリア教育の実践についてご紹介します。

本学では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に到達目標(学習・教育目標)として、4つの能力を設定しています。この4つの能力とは、①大学の学びのための基礎能力、②社会・仕事の基本技能、③ビジネス実務能力、④現代社会を生きる力、です。このうち、主にキャリア教育が担うのは、④に掲げた「現代社会を生きる力」の養成です。つまり、本学では、学位授与の方針で定めている4つの能力のうちの「現代社会を生きる力」を養成する教育プログラムとして、キャリア教育を位置付けています。

なお、本学では、「現代社会を生きる力」を次のように定義しています。

社会や地域の一員としての意識をもち、自ら社会生活や職業生活の実務実践の体験に自主的・積極的に取り組むことができる。そして、この体験を通して就業や就業に必要な能力にかかるテーマに関する問いを深め、キャリア、つまり生涯に渡って学びを継続させる就業のあり方を自ら考える基礎力を醸成する。

本学の2年間に渡るキャリア教育の柱は、3つの必修科目(「学びの目標とキャリア」、「就業への道」、「就業とキャリア考」)、2年間に渡るキャリア教育を支えるツールである「就業力ポートフォリオ」、先に挙げた必修科目「就業とキャリア考」の中で学生一人ひとりが執筆する卒業レポート「就業体験と私のキャリア」です。

「学びの目標とキャリア」は、1年次集中科目で、入学直後に2日間に渡って行われます。この科目では、社会で活躍する卒業生の話を聞くことなどを通して、本学における学びと社会・仕事とのつながりを意識した上で、2年間の短大生活における到達目標と到達目標を達成するための方策作りをします。ここで作成した到達目標と方策は、学期ごとに振り返りを行った上で、見直します。なお、学習したことや体験したことなどは、2年間を通じて「就業力ポートフォリオ」に記録し、到達目標と方策を見直す際に活用する仕組みとしています。

ここで、「就業力ポートフォリオ」について説明します。「就業力ポートフォリオ」は学習体験のみならず、課外活動、アルバイト、就職活動、日常生活などの活動内容や活動体験を通して得た気づきなどを記録しておくファイルです。本学では、あらかじめ用意したシートに学生が手書きし、教員がコメントを書いて返却する形式を採用しています。なお、先に触れたとおり、この「就業力ポートフォリオ」は、到達目標と一体で運用しています。つまり、入学直後に到達目標を設定(Plan)し、様々な活動を行い(Do)、それを就業力ポートフォリオに記録します。そして、その記録に基づいて学期ごとに到達目標の振り返りと見直しを行う(See)というプロセスを2年間に渡って繰り返します。

「就業への道」は、1年次後学期科目です。この科目では、事例研究やグループワーク、ロールプレイなどによって仕事や働くことに関する価値観を確認し、自分自身の言葉で表現できるようになることを目指しています。

「就業とキャリア考」は、2年次通年科目です。この科目は、本学におけるキャリア教育のまとめの科目として、1年次から「就業力ポートフォリオ」に記録してきた学習体験などを振り返ることで、どのような就業力を身につけてきたかを把握します。その上で、就職活動や就業体験などを通して、就業に必要な知識・スキル・マインドについて理解を深め、それらを身につけていくためには学習の継続が必要であることを理解し、自らのキャリアについて考えることができるようにする科目です。このように本学においては、就職活動もキャリアへの気づきを得るための体験学習の1つとして捉えています。なお、この「就業とキャリア考」の中で、卒業レポート「就業体験と私のキャリア」を作成します。

学生は卒業レポート「就業体験と私のキャリア」を執筆する過程を通じて、自らが身につけてきた就業力、すなわち、「現代社会を生きる力」についての学習成果を実感することができます。一方、教員は学生が執筆した卒業レポートを読むことで、学生たちの学習成果を質的に把握することができます。2012年度は、この卒業レポートによる「現代社会を生きる力」についての学習成果の質的把握を試行しましたが、概ね良い結果を得ることができたと考えています。

今後は、キャリア教育の学習成果を把握する方法について検討を重ねるとともに、学習成果を更に高めていくために、科目の改良を進めていきたいと考えています。

## ◆創立40周年記念講演会・記念祝賀会を開催◆

本協会は1973年全国短期大学秘書教育協会として誕生し、1994年には全国大学・短期大学実務教育協会に発展的改組し、さらに2009年には法人化され「一般財団法人全国大学実務教育協会」として設立されました。本年2013年をもって創立40周年を迎えますので、下記により創立40周年記念講演会・記念祝賀会を開催いたします。

このたびの創立40周年記念講演会・記念祝賀会は、法人化されて間もないということもあり会員校を中心として開催いたします。

### 記念講演会

日時：平成25年6月28日(金)午後3時～午後4時15分

演題：高等教育の質的転換について

—知識・伝達注入授業から能動的学習へ—

講師：筑波大学理事・副学長(学生担当) 清水一彦氏

場所：帝国ホテル東京 本館中二階 光の間

### 記念祝賀会

日時：平成25年6月28日(金)午後4時30分～午後6時30分

場所：記念講演会に同じ

なお、会員校代表者に対するご案内は4月24日に発送いたしました。

## ◆課題解決型学習の実践事例研究会を開催◆

本協会は、創立40周年記念事業の一環として、課題解決型学習の実践事例研究会を下記により開催いたします。

この研究会は、能動的学習(アクティブラーニング)を実現する具体的な教育方法としての「課題解決型学習」(PBL)を取り上げて、先駆的な実践例に学び、さらにこの学習方法を深めていくために開催するものです。この研究会は、今後継続的に実施することを予定しています。

会員校に対する通知は7月中旬頃までに送付いたします。

日時：平成25年9月6日(金)10:30～18:30

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

## ◆新資格「実践キャリア実務士」の認定制度を施行◆

すでにご案内のとおり新資格「実践キャリア実務士」の認定制度が平成25年4月1日から施行されました。

この新資格は、大学教育から就業へつなぐ教育課程として明確に位置づけることにより、学習者主体の総合的な課題解決学習への転換が容易になり、職業横断的な共通能力や人間力の育成が実現します。

これまでに大学2校、短期大学12校の計14校が「実践キャリア実務士」の資格教育課程の認定を受けました。

## ◆三資格(上級を含む秘書士<sup>®</sup>・ビジネス実務士<sup>®</sup>・情報処理士<sup>®</sup>)認定制度を施行◆

三資格(上級を含む秘書士<sup>®</sup>・ビジネス実務士<sup>®</sup>・情報処理士<sup>®</sup>)の認定制度が平成25年4月1日から施行されました。

この三資格は、従前から認定している三資格(上級を含む秘書士・ビジネス実務士・情報処理士)のリニューアルを行ったものであり、現在本協会が授与している資格の約8割を占めています。

あたらしく平成25年度より当該三資格の資格教育課程の認定を受けた大学の数は次のとおりです。秘書士<sup>®</sup>：短期大学15、上級秘書士<sup>®</sup>：短期大学9、上級秘書士<sup>®</sup>(国際秘書)：短期大学3、上級秘書士<sup>®</sup>(メディカル秘書)：短期大学11、ビジネス実務士<sup>®</sup>：短期大学15、上級ビジネス実務士<sup>®</sup>：短期大学6、上級ビジネス実務士<sup>®</sup>(国際ビジネス)：短期大学1、上級ビジネス実務士<sup>®</sup>(サービス実務)：短期大学3、情報処理士<sup>®</sup>：大学2・短期大学22、上級情報処理士<sup>®</sup>：大学1・短期大学14校です。

## ◆「実務・キャリア教育推進特別委員会」を設置◆

本協会では平成23年度から平成24年度の2年間にわたり実務・キャリア教育検討特別委員会を設置して、「実践キャリア実務士」を創設し、また従前の上級を含む秘書士、ビジネス実務士、情報処理士のリニューアル資格を提案し、いずれも平成25年度から施行しました。

また、本特別委員会が企画して平成24年度には「実践キャリア実務士」の創設を記念して「大阪フォーラム」を開催したほか、関西地方の大学を訪問するなどのプロモーション活動を積極的に展開してきました。

本協会は、平成25年度から継続して「実務・キャリア教育推進特別委員会」を設置して、2年間にわたる「実務・キャリア教育検討特別委員会」の成果を生かし、あらたな教育方法に関して教員養成に取り組むこと等によって、今後の高等教育の在り方を示していくことを予定しています。

## ◆平成25年度新規入会及び新規教育課程認定等の申請期限◆

新規入会及び新規教育課程認定等の平成25年度の申請期限は、平成25年7月25日(木)及び平成26年1月27日(月)です。

本年度から施行された「実践キャリア実務士」及び「三資格(上級を含む秘書士<sup>®</sup>・ビジネス実務士<sup>®</sup>・情報処理士<sup>®</sup>)」についての教育課程の認定申請も上記提出期限によります。

なお、すでに承認を受けている教育課程の変更(科目の追加・削除、科目名の変更、協会承認の◎印の専任教員の変更等)についても事前に上記提出期限までに申請する必要があります。

また、従前からの三資格(上級を含む秘書士・ビジネス実務士・情報処理士及び秘書士(国際秘書)、秘書士(メディカル秘書))のあらたな資格教育課程の申請は、原則として平成24年度限りで終了となりました。

## ◆平成24年度資格認定証授与数は12,229件◆

平成24年度資格認定証授与数は12,229件でした。その内訳は大学3,366件、短期大学8,863件でした。

従前の全国大学実務教育協会からの資格認定証授与数の総数は568,549件となりました。

平成24年度の資格認定証授与数の上位10資格は次のとおりです。

①情報処理士	2,948件	⑥プレゼンテーション実務士	610件
②ビジネス実務士	2,353件	⑦ウェブデザイン実務士	557件
③秘書士	1,534件	⑧秘書士(メディカル秘書)	455件
④上級情報処理士	1,517件	⑨上級ビジネス実務士	438件
⑤上級秘書士	634件	⑩園芸療法士	228件

## ◆Webサイトに実践キャリア実務士紹介動画を掲載◆

本協会では平成25年から施行された「実践キャリア実務士」の紹介動画(2分25秒)を作成し、Webサイトに掲載しました。ご覧いただければ幸いです。

また、本協会のWebサイトの「よくある質問[新資格]Q&A」に新資格の「実践キャリア考」や「総合的実践実務」のシラバスサンプルを掲載しました。

## ◆「実践キャリア実務士」商標登録◆

本協会は、本協会の認定に係る資格について特許庁に商標登録を行っています。平成24年11月22日付で「実践キャリア実務士」の商標登録が実現しました。

なお、特許庁により商標登録が実現した本協会認定の資格は21資格となりました。

## 平成25年度 新規会員校一覧

〈大学 1校〉 (平成25年4月1日入会)

No.	大学名	学長名	住所
1	兵庫大学	三浦隆則	〒675-0195 兵庫県加古川市平岡町新在家2301
	申請資格	こども音楽療育士	

〈短期大学 1校〉

No.	大学名	学長名	住所
1	京都経済短期大学	岩田年浩	〒610-1195 京都府京都市西京区大枝東長町3-1
	申請資格	情報処理士 <sup>®</sup>	

会員校		平成25年4月1日現在
●大学	.....	88校
●短期大学	.....	129校
		計 217校

## 平成24年度 実務教育優秀教員被表彰者名簿

〈短期大学〉

No.	大学名	氏名	所属	職名	担当科目
1	ブール学院大学 短期大学部	加藤晴美	秘書科	専任 講師	「秘書実務1,2」
2	大手前短期大学	水原道子	ライフデザイン 総合学科	准教授	「ビジネス実務総論」 「ビジネス実務演習A」 「プレゼンテーション概論 (eラーニング科目)」
3	鹿児島純心女子 短期大学	平国美佐喜	英語科	准教授	「秘書学概論Ⅱ」

\*大学名、所属、職名は平成25年3月31日現在である。(敬称略)